

デジタル時代における放送制度の在り方に関する検討会 小規模中継局等のブロードバンド等による代替に関する作業チーム（第15回） 議事要旨

1. 日時

令和5年11月2日（木）17時00分～18時31分

2. 場所

総務省内会議室及びWEB

3. 出席者

（1）構成員

伊東主査、石塚構成員、市川構成員、伊藤構成員、小川構成員、京屋構成員、クロサカ構成員、齋藤構成員、高木構成員、高田仁構成員、高田光浩構成員、平林構成員、丸田構成員、三友構成員、森川構成員

（2）オブザーバ

長田オブザーバ

（3）総務省

山崎大臣官房審議官、金澤情報流通行政局総務課長、飯倉同局放送政策課長、山口同局放送技術課長、佐伯同局地上放送課長、岡井同局衛星・地域放送課長、飯村同局情報通信作品振興課長、細野同局放送政策課外資規制審査官、金子同局地域放送推進室長、西村同局放送技術課技術企画官、平野同局衛星・地域放送課技術企画官

（4）実証事業請負事業者

株式会社情報通信総合研究所 水野 主任研究員

4. 議事要旨

（1）作業チームの今後の進め方について

- ・事務局（細野外資規制審査官）から、資料15-1に基づき、説明が行われた。
- ・説明後、質疑応答の時間を設けた。構成員等から特段意見は出なかった。

（2）令和5年度実証事業の実施計画案について（前半）

- ・株式会社情報通信総合研究所から、資料15-2-1に基づき、説明が行われた。
- ・説明後、質疑応答を行った。構成員等からの発言は、以下のとおり。

【三友構成員】

全国調査は、オンライン（Web）による調査ということですが、資料15-2-1の12ページに「全国調査：R4事業で抽出された課題への対応」というページがあり、そちらに「インターネットを利用していない被験者」という項目が課題として挙げられているのですが、ウェブアンケート以外のアンケートは何らか実施されるのでしょうか。

【情報通信総合研究所（水野主任研究員）】

今回は、全国調査の枠の中では、あくまでインターネットを御利用の方だけを対象にして調査を行います。

【三友構成員】

そうすると、インターネット未利用者に関しては、全国調査からは外れるということですね。

【情報通信総合研究所（水野主任研究員）】

そうなります。後ほどフィールド調査のご説明の中でお話しさせていただくのですが、昨年度の実証事業のエリアの方には、インターネットを御利用になっていない方もいらっしゃいましたので、フィールド調査の中で、インターネットを御利用になっていない方については、調査B（集合検証）に誘導し、できるだけサンプルを取りたいと動いているところでございます。

【三友構成員】

分かりました。そういうことだと理解いたしました。

もう一点ですが、全国調査において予定されているサンプル数が非常に多いように感じます。4つの区分で、年代が6世代に渡ってありまして、それぞれ500サンプル取るということですが、この数はどうやって算出されたのでしょうか。

【情報通信総合研究所（水野主任研究員）】

実際は、三友先生の御指摘のとおり、これだけの数を集めなくても、ある程度の精度の結果は出てくるものと認識しております。今回、特に何かしらの基準を持って出してきたものではございません。調査期間の中でどの程度多くのサンプルを集められるだろうかという視点で、調査に協力いただく事業者と相談しまして、これだけの規模であれば集め得るだろうという数字を出しているところでございます。今回、資料15-2-1の11ページに記載がありますが、実施体制の中のNTTコム オンライン・マーケティング

ィング・ソリューションという企業とタイアップしていきます。今回の調査の対象は、NTTコム オンライン・マーケティング・ソリューションのパネルに登録されている方が対象なのですが、調査期間を想定し、ここまでの規模であれば取り得るだろうということで、12,000という全体の数値を算出したところでございます。

よって、正確性のために最低限必要な水準がここだということではなく、取り得る大きな数を取ろうとして、調査を設計しているということが実際のところでございます。

【三友構成員】

予算の問題もあろうかとは思いますが、正直感覚的には非常にオーバースペックな感じがいたします。調査票の内容も構成員限りということで見えているのですが、その辺り、本当にこれだけのサンプルが必要なのかなということは、正直感じるころではございます。

【情報通信総合研究所（水野主任研究員）】

ありがとうございます。

【伊東主査】

今の御質問に関係するのですけれども、テレビの視聴頻度及びネットの視聴頻度に関する高低の関係で4つの象限がございしますが、70代以上のネットで応答できる方が、各象限で500名となると中々大きな数字だと思うのですが、きちんとサンプルは集まるのでしょうか。

また、このサンプルは、かなりバイアスがかかっている方々になってしまうのではないかという点が気になります。若い方々であれば、おおよそネットを使用しているのが一般的だと思うのですが、年齢が上がってきますと、ネットに関わらない方のパーセンテージが増えてくると思いますので、その辺りが少し気になります。

【情報通信総合研究所（水野主任研究員）】

御指摘のとおりと思います。2つ御質問をいただいたと思います。

まず、70代以上、各象限で500サンプルが集まるのかということなのですが、こちらは集められるのかという点についても、先行で弊社が実施している様々な調査を踏まえても、集まるのではないかという想定をしているところではあります。実際、やってみないと分からないところではあります。集まるだろうという想定の上で、現時点では調査設計をしております。

もう一点、2つ目の御質問は、サンプルにバイアスがかかるのではないかということとして、これは

伊東主査や他の皆様もお感じになっているとおりに思います。特に高齢の世代に行けば行くほど、その世代の実像と合わないのではないかという可能性は出てくると思います。そういった点は、フィールド調査の現地での各世代の評価と照らし合わせることによって、どの程度のバイアスを持っているのか、きちんと検証していかなければならないと思います。

全国調査に関しては御指摘のとおりでして、弊社がこれから進めていく調査の限界であったり制約事項により、こういった懸念が考えられるのだということについては、整理をして明らかにした上で、皆様にお示しをしたいと思っております。

【伊東主査】

確認ですが、全国調査は、スマートフォンさえ持っていれば、ポンポンと回答できるという理解でよろしいでしょうか。

【情報通信総合研究所（水野主任研究員）】

おっしゃるとおりです。

【伊東主査】

PCを使わなくて良いのであれば、今の高齢者でも、携帯電話を持たれているとすれば、ガラケーではないでしょうから、そういった機能に接する機会が多いのかなと想像されますので、あまり心配しなくてもよいのかなとも思いました。

【情報通信総合研究所（水野主任研究員）】

スマートフォンの利用者は、高齢の方でも多いので、御回答いただけるようです。

【伊東主査】

分かりました。ありがとうございます。

たとえ500名が集まらなくても、先ほどの三友構成員の御質問からすると、もう少し少なくてもきちんとしたデータになるだろうということですので、そういう意味では安心できるかなとも思います。

(2) 令和5年度実証事業の実施計画案について（後半）

- ・株式会社情報通信総合研究所から、資料15-2-2に基づき、説明が行われた。
- ・説明後、質疑応答を行った。構成員等からの発言は、以下のとおり。

【伊藤構成員】

御説明、ありがとうございます。昨年度の実証事業の結果を踏まえて、今回のフィールド調査の調査項目として加えたものを改めて確認させていただきたいのですが、御教授いただけないでしょうか。

【情報通信総合研究所（水野主任研究員）】

新たに設定した調査項目があるのかという御質問でしょうか。

【伊藤構成員】

おっしゃるとおりです。

【情報通信総合研究所（水野主任研究員）】

新たに設定した項目は、特にありません。ただし、新たに実証しようとしているものは1つございまして、それが調査B（集合検証）のタブレットによる実証になります。昨年度の実証事業のNHKプラスやTVerでは、タブレットでの視聴に関しては実証しておりませんでしたので、今回の検証プラットフォームの中で新たに実装しているものです。こちらについては、今回、実際に被験者にお試しいただきながら評価いただくこととなります。

【伊藤構成員】

承知しました。ありがとうございます。もう一点、御質問させていただいてよろしいでしょうか。先ほど緊急地震速報の御説明がありましたが、これは今回の実証用に作った仕組みで発報すると理解したのですが、合っていますでしょうか。

【情報通信総合研究所（水野主任研究員）】

おっしゃるとおりです。今回の仕組みの中で試験的に発報いたします。

【伊藤構成員】

分かりました。ここからはコメントなのですが、そうであれば、サービスとして実現する方法は別途検討するということだと思います。調査時に被験者の方に対して、今回の実証ではこういった形で実施するけれども、実際の実装方法はまた別途、サービスとしては別であるということをお伝えいただき、御理解をいただいた上で調査されると良いかと思いました。よろしく願いいたします。

【情報通信総合研究所（水野主任研究員）】

おっしゃるとおり、御指摘を踏まえて、このまま何か実現していくものではないということについては、丁寧に説明を進めるようにいたします。

また、今回の調査は、伊藤様からお話しいただいたとおり、あくまで今回の仕組みの中で被験者がどのように捉えられるのかということ进行分析していくものですので、最終的には、その結果を踏まえて、本BB代替作業チームの皆様で、BB代替をどういった形で実装していくのかを御議論いただく良い材料にしていきたいということが、弊社の今回の調査の狙いだと考えております。

【伊藤構成員】

ありがとうございます。引き続き、よろしく願いいたします。

【齋藤構成員】

ICRさんからも丁寧に調査を実施していきますというお話でした。緊急地震速報に関しても、今回のシステムでは3秒ですが、今の地上波放送では遅延なく送出していますので、そういった状況をしっかりと被験者にはお伝えした上で、受容性の調査を行っていただきたいと思います。

また、もう一点、資料15-2-2の23ページのフタかぶせの検証に関してですが、やはりこのフタかぶせの頻度によって、被験者の感じ方というのは非常に大きく異なってくるのではないかと思います。見ていただくコンテンツによって大きく意見が分かれると思いますので、ここは丁寧に、どういったフタかぶせの頻度だったのかという点をしっかりと記録した上で、調査を実施していただきたいと思いません。

【情報通信総合研究所（水野主任研究員）】

いずれの質問についても承知いたしました。特にフタかぶせのほうは、NHKプラスの番組中に入るフタを見逃しにより御覧いただく流れを想定していますので、実際にどういった長さのどういったフタが入るのかということについては、1週間前にならないと弊社としても把握できないところになります。検証結果として皆様にお示しする際には、フタの内容と併せて調査結果をお示ししたいと思いません。

【齋藤構成員】

実際にどういったものを見て、どういう風に感じられたのかということをしかりとレポートしていただければと思います。

【伊東主査】

先ほどNHKの伊藤構成員からの御質問で、緊急地震速報の件が挙がっておりましたが、この件に限らず、他の項目についても、仮にBB代替が実用に供された際には、今回の実証事業の方式で提供されるのかどうかは、必ずしもまだ決まっていないと思います。

もちろん、今回の実証では、現時点において想定される実際の状況にできる限り近い形で実施したいということですが、実際に提供する際の「品質・機能要件」等は、今回の実証の結果等も踏まえて改めて検討することになりますので、その意味では、緊急地震速報だけではなく、全体に対する注意点になるのかなと思いました。

【事務局（細野外資規制審査官）】

事務局から構成員のみなさまに一点申し上げます。先ほど私から資料15-1により、「今後の進め方」に関して説明いたしましたとおり、今後、この被験者へのアンケートの調査結果等を踏まえていただき、「品質・機能要件、青写真、標準的手順」などを構成員のみなさまにご検討いただくという流れになっておりますので、この点も踏まえて、もしコメントがありましたら、いただければ幸いです。

念のため確認させていただきたいのですが、アンケートの調査票の部分で、例えば、昨年度の調査と比較して、項目に変更があったなど、何か顕著な部分がありましたら、その点も御説明いただければ幸いです。例えば、こういったものを新たに聞こうとしている等、もし何かございましたら、構成員のみなさまの参考になるものと思いますので、よろしく願いいたします。

【情報通信総合研究所（水野主任研究員）】

項目としては大きな変更はないのですが、調査票の内容としては、昨年度の実証事業を踏まえて、かなり色々を変更を加えております。具体的な部分で言いますと、構成員・オブザーバ限りのページになるのですが、特にデータ放送は、今回検証プラットフォームの仕様として実装ができなかった部分になりますので、調査票の聞き方を工夫しております。昨年度、データ放送に関しては、あったほうがいいのか、なくてもいいのかという観点で伺っておりました。実際にデータ放送というものはこういうものかということとは体験いただくことなく、図でお示したものについて、これはあったほうがいいのか、なくてもいいのかということについてお尋ねしておりました。今年度は、あったほうがいいのか、なくてもいいのかということについても何となく尋ねている形にはなっていますが、調査のメインは、データ放送を使う実態について尋ねている形です。どの程度の頻度で使うのか、どういったジャンルで使うのかということをお尋ねしつつ、かつ、よく使っているという方に対しては、ヒアリングによる調査の重点

テーマとして、きちんと実態を把握していくことを想定しています。今回、どうしても、検証プラットフォームの中にはデータ放送の機能が実装できなかったものですから、それをきちんと青写真の中でどう反映していくのかということを確認するために、データ放送の実態についてきちんと把握をしていこうとするところが、一例として、昨年度の調査項目との大きな違いでございます。

【伊東主査】

御説明いただきました実証事業の実施計画、本日は、基礎的調査関係とフィールド調査関係の2つに分けて御説明いただきましたけれども、これらを併せて、実証事業の実施計画全般につきまして、御承認いただいたということによろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【伊東主査】

それでは、特に御異議はないと判断いたしますので、今後、本日御承認いただいた実証事業の実施計画に基づいて、しっかりと実証を進めてまいりたいと存じます。ありがとうございました。

(3) 意見交換

- ・ブロードバンド等代替全般について、意見交換の時間を設けた。構成員等から特段意見は出なかった。

(4) 閉会

- ・事務局より、第16回会合は令和5年12月20日(水)17時00分からの開催を予定している旨、連絡があった。

(以上)